

黒弥陀様

むかーし、あったと。

今の三箇が西戸田村と言われた頃、荒川のすぐ近くに真塔院という寺があったそうだ。

ある日、荒川に大水増しが起きちまったと。その濁った水の中に金色にピカピカと光りながら、ざぶーん、ざぶんと浮いたりしずんだりしている物を村人が見つけて、大騒ぎになったんだと。

そこで村中の男たちが総出で

「よっこいしょー、よっこいしょー」

と拾い上げてみると、それは立派な阿弥陀様だったんだと。これはありがたい授かり物と、早速、真塔院の境内に阿弥陀堂を建てお念仏をあげながらお祀りしたんだと。

また、ここには広い道があったから、しよっちゅう馬に荷物を積んで通る人が、大勢いたんだと。

ところがある日、お天道様の光できらきら輝いていた阿弥陀様の姿を見てよ、馬がおったまげちまったと。馬は突然駆け出しどうにも止まらず、大きい荷物をしよったまま、荒川へどぼんと落ちこちて、死んじまったんだそうだ。このことが、村中の大騒ぎになってな、

「光り輝く阿弥陀様が悪い」

と、言うことになって、真つ黒く染めちまったんだと。それからこの阿弥陀様はよ、黒弥陀様と呼ばれるようになったんだとき。

毎年十月十五日には村のみんなが集まり、供養のお念仏をしているそうだ。次の念仏が、今に伝えられている。

婦命頂礼

下野の那須の郡の西戸田の

荒川すじの弥陀如来

大同二年のおんに

天竺よりも天下り

何がそがんで天下る

何もそがんはなけれども

浮世の世人のそのために

お念仏すすめに天下る

死すれば誰しも同じこと

ごじょうの道をたしなんで

ろくじょう深く念ずれば

即身成仏ありがたい

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

おしまい

からすやまの民話第一集より